

二八四一番

我が背子が 朝明の姿 よく見ずて 今日の間  
を 恋ひ暮らすかも

二八四二番

我が心 ともしみ思ふ 新たな夜の一夜も落ち  
ず 夢に見えこそ

二八四三番

愛しと 我が思ふ妹を 人皆の 行くこと見めや  
手に巻かずして

二八四四番

このころの 眠の寝えぬは しきたへの 手枕  
まきて 寝まく欲りこそ